

ふれあい曾山医院

志筑1391-9
Tel:62-5566

2013年7月号
(第85号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



敦子 成氏
近藤 博子
西岡 陽子
赤松 真巳
福井 尚
谷岡

ハチ刺症

アナフィラキシーという言葉を聞いた事がありますか？

アナフィラキシーとは、発症後短い時間のうちに全身にアレルギー症状が出る反応です。

重症のアナフィラキ

シーは、ハチに刺されてから約15分以内に発症。意識障害や急な血圧低下で症状が悪化する。アナフィラキシーショックといいますが、アナフィラキシーショックは30分以内に生じこの期間での死亡が最も多いという



報告があります。

アナフィラキシーの

原因は食物、ハチ、昆虫、薬物などがあります。ハチについては、最近アウトドア活動、森林の宅地化等

が進み、ハチとの接触機会が増え被害が増加しています。被害は夏から秋にかけて多く、8月がピークです。特

にスズメバチやアシナガバチに刺され、ハチ毒に含まれる物質によってアナフィラキシーを引き起こす事があり



ます。

林業、電気設備業、農業、ゴルフ場での作業、山間部でのスポーツや野外レジャーなどはハチ刺されによるリスクが高くなります。

ハチ刺されは2回目
が危ないといわれています。理由は、1回目ハチに刺されると体内に抗体ができ、2回目ハチに刺された時に、その抗体と抗原が結びつきアレルギー反応（痒み、発赤、嘔吐、寒気、冷感、顔面浮腫）を起こします。ハチ毒

ハチ毒アレルギーの対策

【近づかない、触れない】が基本。

自宅での注意。洗濯物や布団を取り込む時、ハチがひそんでいないかよくチェックする。靴の中もチェックする。

ハチが家の中に入ってきたときは、ハチを刺激しないように窓や玄関のドアを開け、外に出るのを待つ。

アウトドアや山での注意。巣に直接触れない。巣の近くでは手足や体全体を急に動かさない。枝や棒などを振り回さない。ひらひらするもの、黒い色の服を身につけない。顔や首、腕、足などを露出させない。甘い香りのする香水や整髪料はつけない。ジュースを飲む時は注意。

ハチが向かってきた時は、手でふりはらったり大声をあげない。慌てずに目を閉じて、顔を下向き加減にし、身を低くしてじっとし、素早くその場から離れるようにする。

のアレルギーがない場合は、刺された箇所は痛みやかゆみ、腫れの症状がありますが、数日で消えます。特に短期間（1〜2年以内）に2回刺されるとアナ

フィラキシーを起こしやすくなります。ハチに刺された時は、直ちに最寄りの医療機関を受診し医師による処置、治療を受けるようにしましょう。

過去にアナフィラキシーを起こした事がある、またはハチ刺されリスクが高い場合は、アナフィラキシーショックの症状を緩和する補助治療剤としてエピペン（アドレナリン自己注射用キット）を携帯するようにしましょう。エピペンを処方してもらうには登録医師の診断が必要です。当院でも処方可能ですので一度診察室でご相談ください。（看護師 丸橋 節子）

